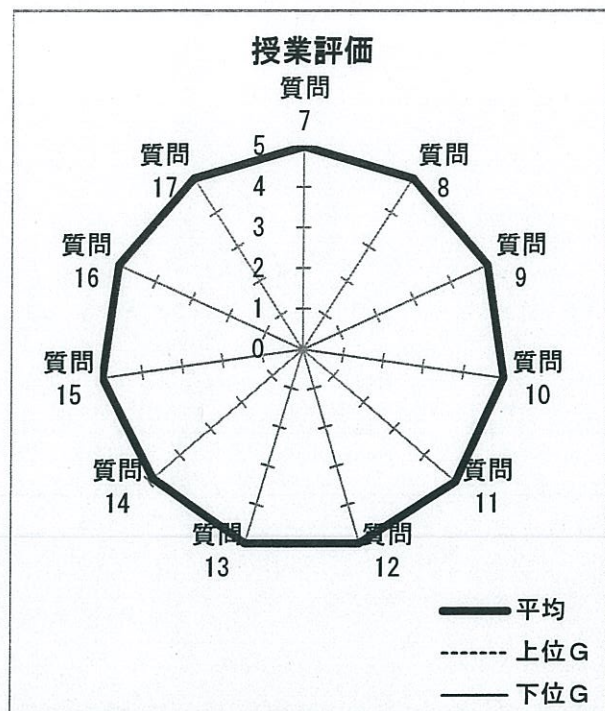


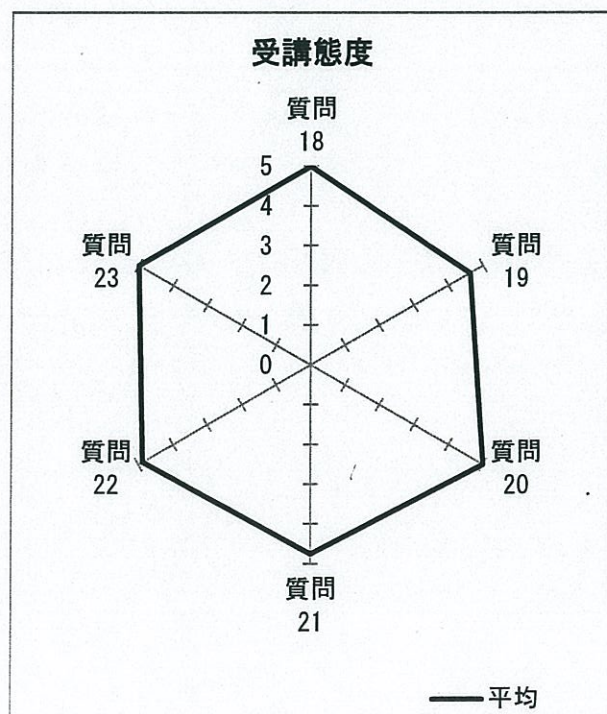
科目コード 814 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 江頭 ひとみ 養護実習



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	5.0	5.0	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	5.0	5.0	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	5.0
質問19	4.6
質問20	5.0
質問21	4.8
質問22	4.9
質問23	5.0
平均	4.9

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	江頭 ひとみ	養護実習	8

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価において

質問7～質問17では、質問14が評価4.9で、それ以外は5.0であった。

学生の意欲が高く、頑張って養護実習に行きたいという思いが伝わってきた。

指導の準備や指導方法の工夫など、かなり時間をかけて行ってきたことが、学生にも伝わったと嬉しく思った。

質問14「学生の理解度の確認と授業への反映」が4.9であった。学校での養護実習までに身に付けたり理解してほしいことなど内容が多く、要求が高かったと考える。

受講態度において

質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」の4.6

質問21「授業の予習・復習をおこなったか」の4.8

質問22「レポート・課題に積極的に取り組んだか」の4.9

それ以外の質問は、5.0であった。

学生の習熟や理解度に応じた指導が十分ではなかったのだと考える。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名： 「養護実習」、「教育相談と健康相談」

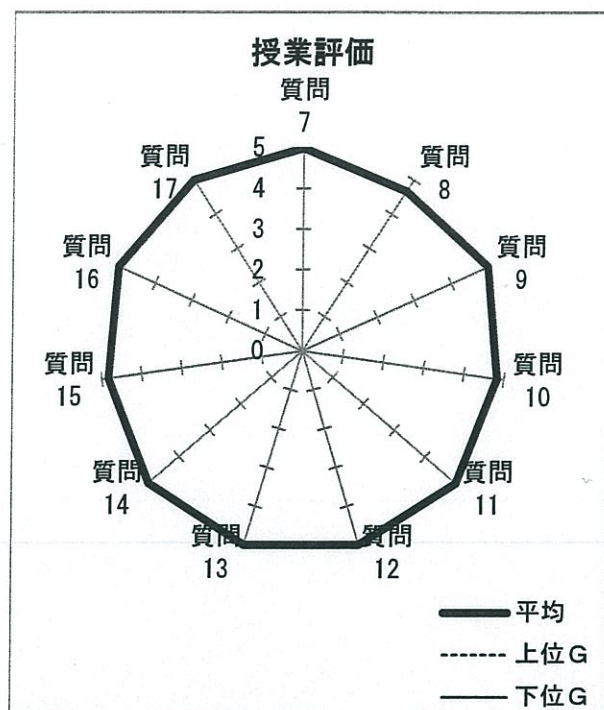
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

必要だと考える指導内容を減じるより、なぜ必要なのかを学生に理解させ、努力していく方向への指導の充実を図りたい。

そして、習熟度にあわせた個々の学生への細やかな指導を心掛けたい。与えられるものを求めるのではなく、自分の力量を高めるために、自分から求めることの大切さを、講義の中で指導していきたいと思う。

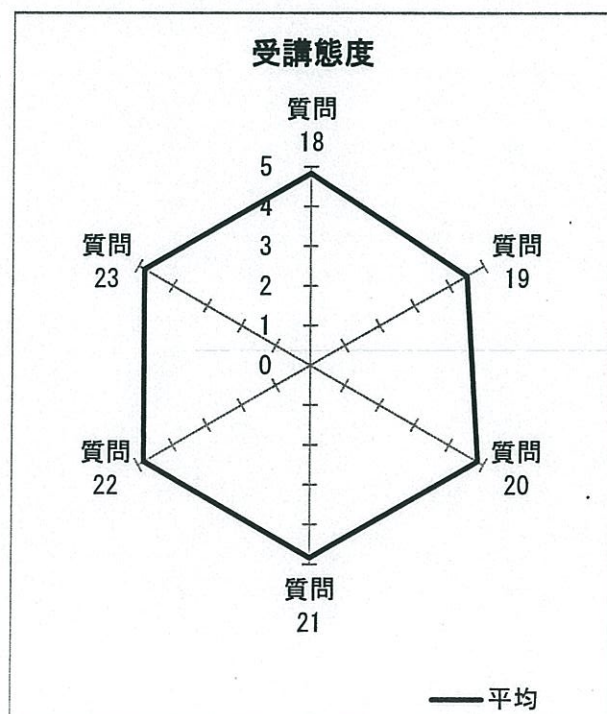
科目コード 815 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 江頭 ひとみ 3年セミナーa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	4.7	4.7	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	5.0	5.0	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	5.0	5.0	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	4.8
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	4.8
平均	4.8

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	江頭 ひとみ	3年セミナーa	6

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

授業評価において

質問8「教員の授業時間遵守」が4.7であった。研究テーマや取組について等、一人一人と面談して進めていきたいことが多く、個人面談の時間を講義以外にも時間を作って行ってきた。

質問10「教材・機器・板書等の効果的な使用」が4.8であった。レポートのまとめさせた学生の研究発表や協議を中心に進めたので、活用頻度は少なかったかもしれない。

質問15「(自分は) 授業を理解できたと思うか」では、4.8だった。5名が『そう思う』だったが、1名が『どちらかといえばそう思う』だった。

それ以外の質問では5.0であった。初めてのセミナー担当だったので、少し安心した。

受講態度において

質問19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」が4.5であった。

『そう思う』が3名で、『どちらかといえばそう思う』も3名、もう少しかみ砕いての指導が必要だったと考える。

それ以外は4.8で、『そう思う』が5名で、『どちらかといえばそう思う』が1名だった。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名： 「4年セミナーa」

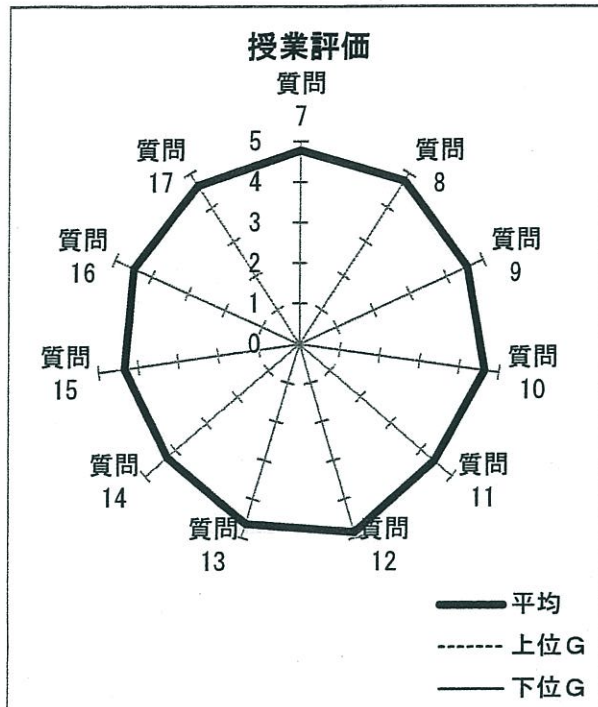
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

人数が6名で、セミナーとしては少し多いと思うが、個々に応じた指導を心掛けたい。一人一人に考えたり、まとめたりする力をつけさせていきたいと考える。

卒論提出まで、各自がきちんとできるよう指導していきたい。また、学生と共に一緒に成長できるようなゼミでありたいと思う。

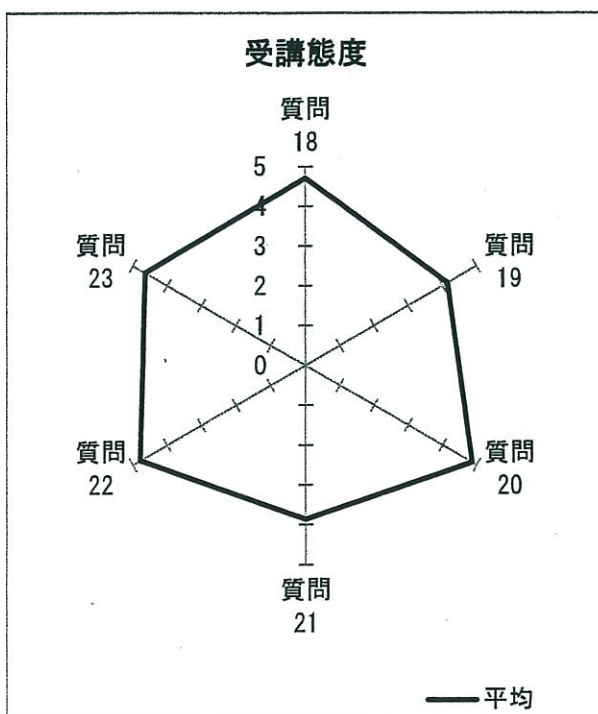
科目コード 816 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 大野 志保 学校保健



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.6	4.6	#DIV/0!
質問10	4.6	4.6	#DIV/0!
質問11	4.4	4.4	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.6	4.6	#DIV/0!
質問14	4.3	4.3	#DIV/0!
質問15	4.4	4.4	#DIV/0!
質問16	4.5	4.5	#DIV/0!
質問17	4.6	4.6	#DIV/0!
平均	4.6	4.6	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.1
質問20	4.9
質問21	3.9
質問22	4.8
質問23	4.6
平均	4.5

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	大野 志保	学校保健	14

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

本科目は養護教諭免許状取得のための必須科目である。2 年次以降は、「保育コース」と「養護教諭コース」の 2 つのコースに分かれるが、1 年生前期ということもあり、受講者全員が「養護教諭コース」を希望しての受講ではなく、コース選択に迷う学生も受講していた現状がある。

授業評価については、質問 11「教員の説明のわかり易さ」、質問 14「学生の理解度の確認と授業への反映」、質問 15「(自分は) 授業を理解できたか」、質問 16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」の平均点が低い結果であった。しかし、いずれの項目も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している学生が 9 割を超えていたため、受講人数が少ないことを考慮すれば、それほど低い評価ではなかったといえる。

授業態度については、質問 19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」、質問 21「授業の予習・復習をおこなったか」の平均点が低い結果であった。毎回の授業内容については、シラバスを提示しているため、到達目標が理解できていないことが評価を下げた要因であると考えられる。また、授業の予習・復習については、シラバスに提示しているが、1 年生の前期科目でもあり学生自身が大学での授業でも予習・復習の必要性についての理解が乏しいことが考えられる。

II. 2019 年度に向けての取り組み

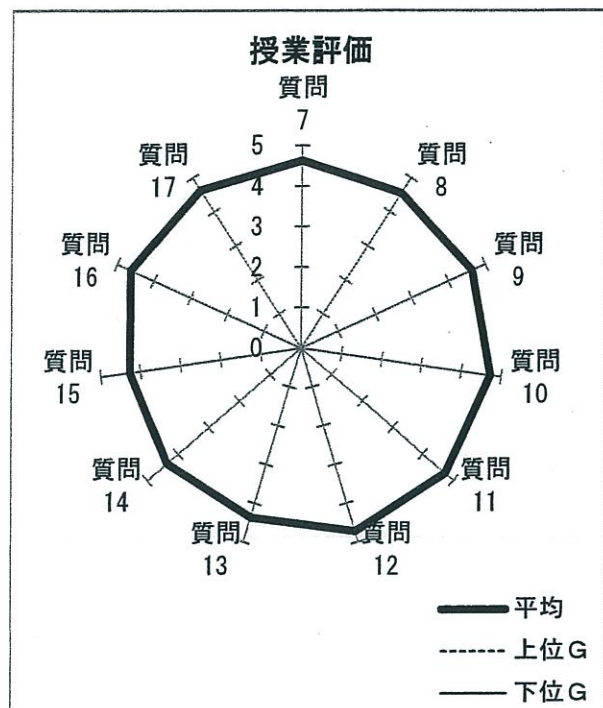
2019 年度担当予定科目名： 学校保健

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

本科目は、養護教諭免許取得に関わる専門科目であるため、聞き慣れない専門用語もあり、入学後間もない 1 年生にとっては難しく感じる内容も多くあったのではないかと感じている。1 年次前期開講科目であるため、専門用語等について分かりやすく説明するなど工夫したい。

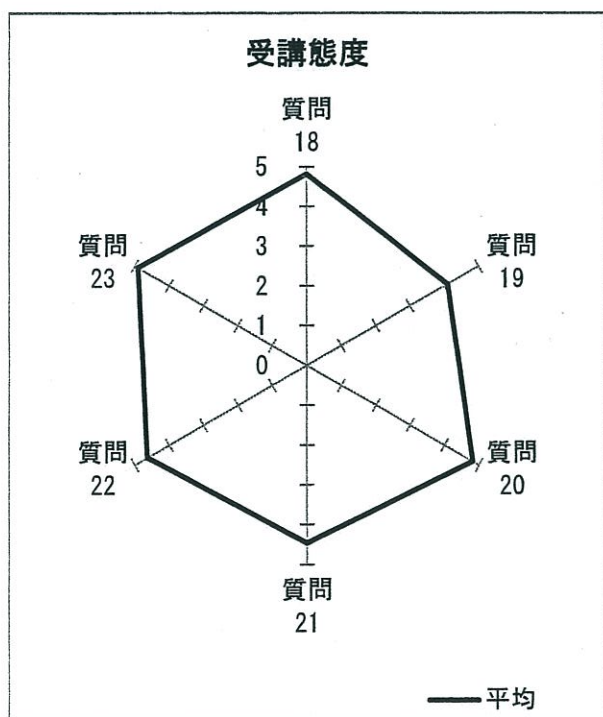
科目コード 817 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 大野 志保 養護概説



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.6	4.6	#DIV/0!
質問 8	4.5	4.5	#DIV/0!
質問 9	4.6	4.6	#DIV/0!
質問10	4.7	4.7	#DIV/0!
質問11	4.7	4.7	#DIV/0!
質問12	4.7	4.7	#DIV/0!
質問13	4.4	4.4	#DIV/0!
質問14	4.4	4.4	#DIV/0!
質問15	4.3	4.3	#DIV/0!
質問16	4.6	4.6	#DIV/0!
質問17	4.6	4.6	#DIV/0!
平均	4.6	4.6	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.1
質問20	4.8
質問21	4.5
質問22	4.6
質問23	4.9
平均	4.6

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数(0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	大野 志保	養護概説	11

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

2 年次開講の養護教諭免許取得に関わる専門科目であり、将来、養護教諭を目指す学生を対象にしていることから授業へ臨む態度や意識も高いと感じられた。

授業評価については、質問 13「質問機会の確保と質問への適切な対応」、質問 14「学生の理解度の確認と授業への反映」、質問 15「(自分は) 授業を理解できたと思うか」の平均点が低い結果であった。しかし、いずれの項目も「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答している学生が 9 割を超えていたため、受講人数が少ないことを考慮すれば、それほど低い評価ではなかったといえる。

受講態度については、質問 19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」の平均点が低い結果であったが、8 割以上の学生が、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答していることから、おおむね授業内容や到達目標を理解して受講していたと考えられる。

II. 2019 年度に向けての取り組み

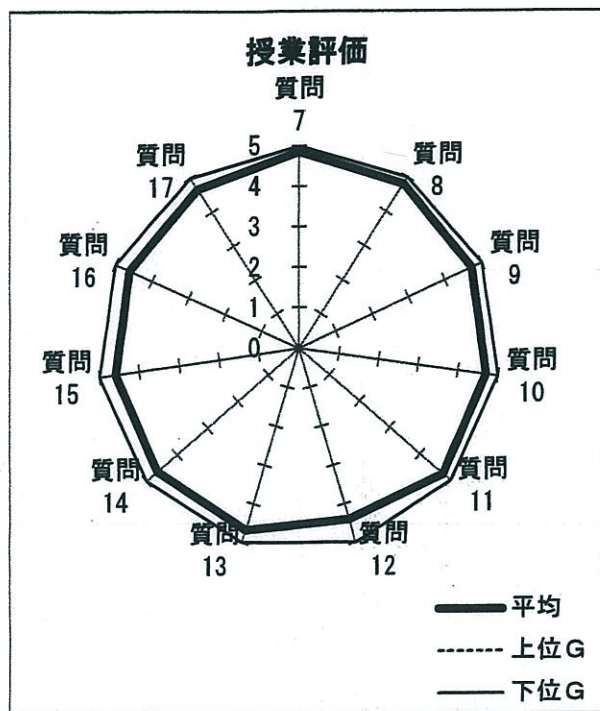
2019 年度担当予定科目名：養護概説

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

上記評価項目の「質問機会の確保と質問への適切な対応」及び「学生の理解度の確認と授業への反映」については、毎回授業終了後に口頭で伝え、学生からの質問を受けるためにしばらく教室に残るようにしていたが、学生からの質問はほとんどなかった。授業終了時のアンケートの回数を増やすなどの工夫をして、「わからなかったこと」と多くの学生が答えていた項目については、次回の授業で解説を加えるなどして改善していきたい。

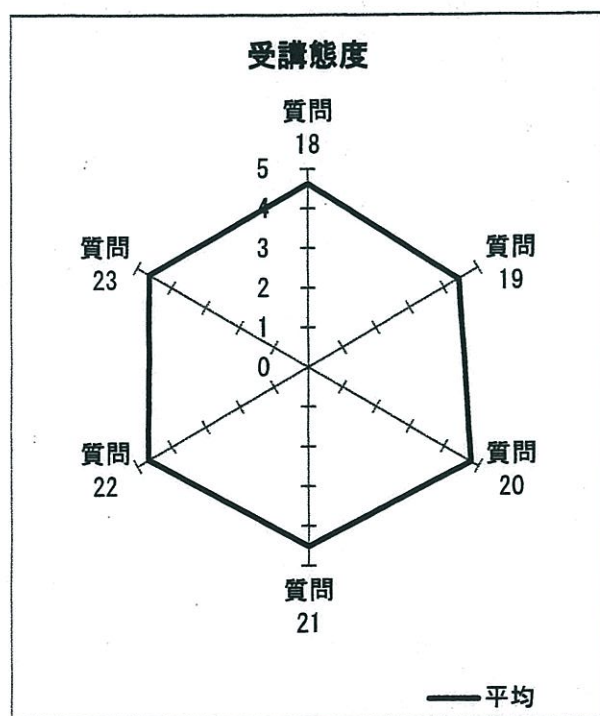
科目コード 818 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 嵩山 映子 子どもの保健 I



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.7	4.7	5.0
質問10	4.7	4.7	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.4	4.4	5.0
質問13	4.7	4.7	5.0
質問14	4.6	4.6	5.0
質問15	4.6	4.6	5.0
質問16	4.6	4.6	5.0
質問17	4.7	4.7	5.0
平均	4.7	4.7	5.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.4
質問20	4.8
質問21	4.5
質問22	4.7
質問23	4.6
平均	4.6

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0 回→5 ポイント、1 回→4、2 回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	嵩山 映子	子どもの保健Ⅰ	39

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2018 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

質問 7「シラバスに沿った授業」では、平均評価が 4.9 と高かった。シラバス通りに取り組めた結果だと思う。

質問 8「授業時間厳守」の平均は 4.8、質問 9「話し方」4.7、質問 10「教材などの効果的な使用」4.7、質問 11「説明のわかり易さ」4.8 と比較的评价は低くなかったが、それに満足することなく、教材については私としてはまだ納得できていないところもあり、もっと学生に分かりやすい資料作りを心がけて行きたいと思う。

質問 12「授業環境に対する配慮」の点で、居眠りされるような退屈な内容にしない努力をしてきたつもりですが、まだまだだと反省しています。私語については巡回することでいくらか減ってきたように感じているので、対策としての巡回に努めていきたい。

質問 13～17 の中での評価は、4.6～4.7 とあまり高評価とは言えなかった。

13「質問への適切な対応」では、文章で書いてもらったことに対して、その後の授業の中で紹介する形で質問に答えたが、質問は全体的に少なかった。

質問 19「授業内容や到達目標を理解していたか」と 21「授業の予習・復習を行ったか」については評価が 4.4～4.5 と低いと 2017 年度の子どもの保健Ⅲでは 4.2 ともっと低かったのも、違う授業内容とはいえ、いくらかレジュメの工夫とレポートのさせ方の工夫が少しは効果が上がったものと思っているので、今後も予習や復習をしやすい環境にしていきたいと思う。

16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」、17「新しい知識・技術・理論等の習得への有用性」、22「レポート・課題に積極的に取り組んだか」など学生のやる気度をいかにして発揮させるかは、授業内容が専門的であるため、もっと理解しやすくするための説明や資料などの工夫が大切だと思うので、今後も追求していきたい。

質問 20「欠席回数」については、欠席 0 回が 29 名、欠席 1 回が 7 名、欠席 2 回が 3 名となっていた。欠席 0 回の人には感謝したい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

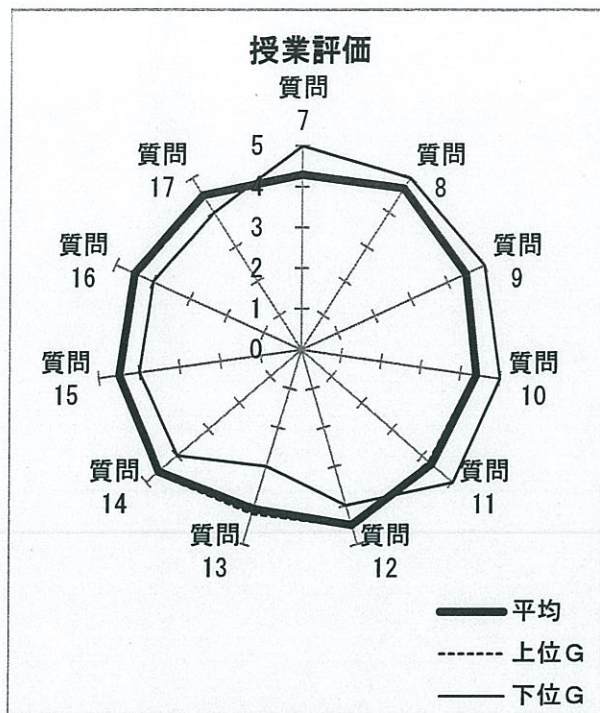
2019 年度担当予定科目名： 子どもの保健Ⅲ、子どもの保健

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)
子どもの保健Ⅲは昨年行ったが、授業の中に実技演習が多くなることもあり、十分に目が行き届かなくなることが懸念される。実技指導を 1 人の教員で行うのには限界があり、学生数 38～39 人はオーバーしていると思われるが、実際 1 人で行わないといけないので、巡回を行いながら指導努力していきたい。

子どもの保健では、学生からの評価コメントを重視し、これからも、授業中の環境に気をつけていくこと。予習や復習をしやすい環境(レポートや課題など)にしていくこと。授業内容が専門的であるが、より理解しやすくするための説明や資料などを工夫していくこと。などで学生のやる気度を発揮できるようにしていきたいと思います。

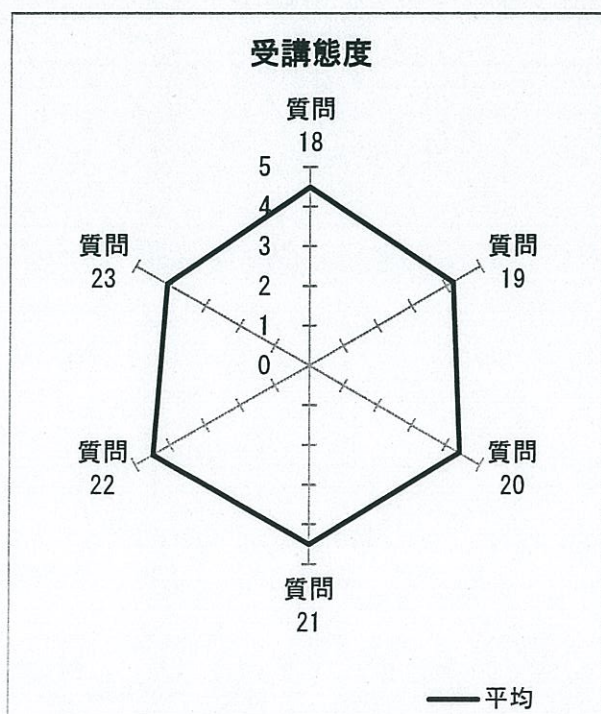
科目コード 821 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 前田 志津子 3年セミナーa



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.3	4.2	5.0
質問 8	4.7	4.7	5.0
質問 9	4.5	4.4	5.0
質問10	4.4	4.3	5.0
質問11	4.3	4.2	5.0
質問12	4.5	4.6	4.0
質問13	4.1	4.2	3.0
質問14	4.6	4.7	4.0
質問15	4.5	4.6	4.0
質問16	4.5	4.6	4.0
質問17	4.5	4.6	4.0
平均	4.4	4.5	4.4

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.5
質問19	4.2
質問20	4.4
質問21	4.5
質問22	4.5
質問23	4.1
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	前田 志津子	3年セミナーa	10名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

学生の希望によりスタートしたゼミである。質問7：ゼミの目標について最初に説明し見通をもって授業に臨むようにしている。また、シラバスに沿って実施するが、受講生の要求をも受け入れながら進めている、そのため一部変更もある、しかしこれは双方の了承によるものである。質問8：時間は遵守して取り組んでいる。質問9：教員の話し方について下位Gは5.0と問題なく、上位Gは4.4となっている、そのところは何が課題なのかよくつかめない。質問10：教材・機器・板書等の効果的使用に関しても、受講生とともに教材研究しかり、機器を使用して伝えたり、ゼミでの発表において効果的に使用したりしている。質問11：教員の説明についても、下位Gは5.0と問題なく、上位Gは4.2となっていてこれもよくわからないが教員としては、精一杯伝えている。伝わっているかどうかは疑問である。

以上の質問7から質問11の項目について下位Gは、5.0であるのに対して上位Gがそうでないのは、疑問である。

なお、質問13：質問の機会の確保と質問への適切な対応では、上位Gは4.2、下位Gは3.0と最も低い、このことについて教員は毎回質問の機会を必ず確保している、そもそも質問が出てこない、資料説明の際、気付いたことや疑問に思ったことを書き留めること、質問事項はマークする等指導している。

II. 2019年度に向けての取り組み

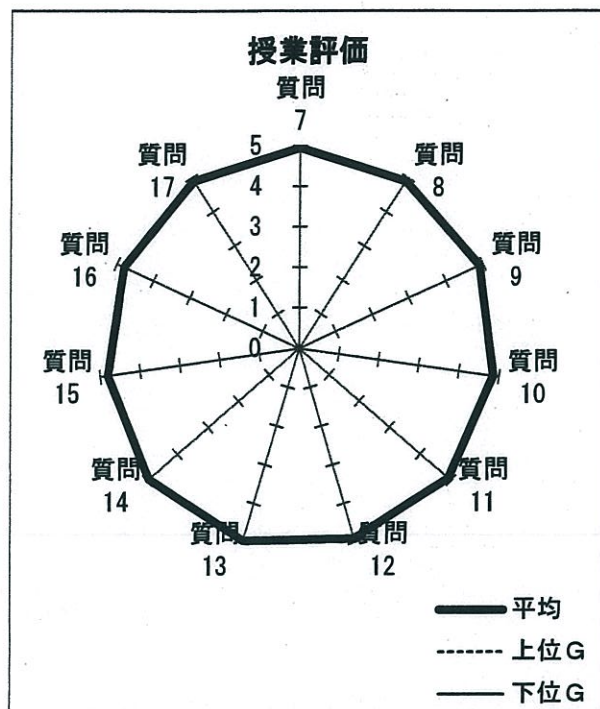
2019年度担当予定科目名：_____

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今後、いずれにしろ一人一人の状況を把握しながら丁寧に向き合って進めていく。そして、受講生自身が主体的に自己課題を生み出していけるよう工夫していく。

科目コード 823 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 金 珉呈 保育実習指導Ⅲ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	5.0	5.0	#DIV/0!
質問15	4.8	4.8	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

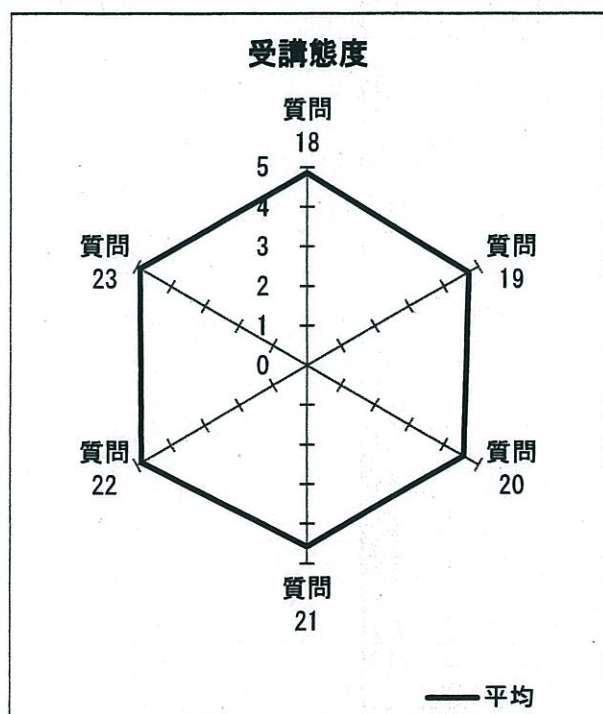
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.6
質問21	4.6
質問22	4.9
質問23	4.9
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	金 珉呈	保育実習指導Ⅲ	21 名

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体的に評価は高い。保育士資格の取得のために必ず受講しなければならない科目である。しかし、受講生のほとんどが養護教諭コースであり、保育士は残念ながら「資格だけ」と思っている学生が多い。または、一般企業に就職希望の学生もあり、「資格はとりたい」が、保育現場での就職は考えていない学生も多いため、受講生全体の授業に対するモチベーションは低い。

しかし、3、4 年生が受講しており、保育の最後の実習であることの自覚はもっているため、基本まじめに受講を受けている。全体的に授業の態度や提出課題の期限を守るなど、受講生としては大きな問題はないが、「もう少し掘り下げてみるとか、深く考えてみる」という気持ちがありません。

引き続き、学生一人ひとりが意欲をもち、主体的に授業に参加できるような授業の内容について工夫していきたい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名 : 介護等体験

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

学生が授業に興味を持ち、意欲的に参加できるように引き続き、以下の教育方法の工夫を行う。

①授業の構成やレジュメ作成上の工夫

: 90 分授業で概ね 3 つの小テーマを用意し、メリハリのある授業を行う。またレジュメには「本日の授業内容」を明記し、冒頭に確認して学ぶ内容のイメージを提示するとともに、学生が授業後に達成度を評価できるようにしている。

②授業を進め方の工夫

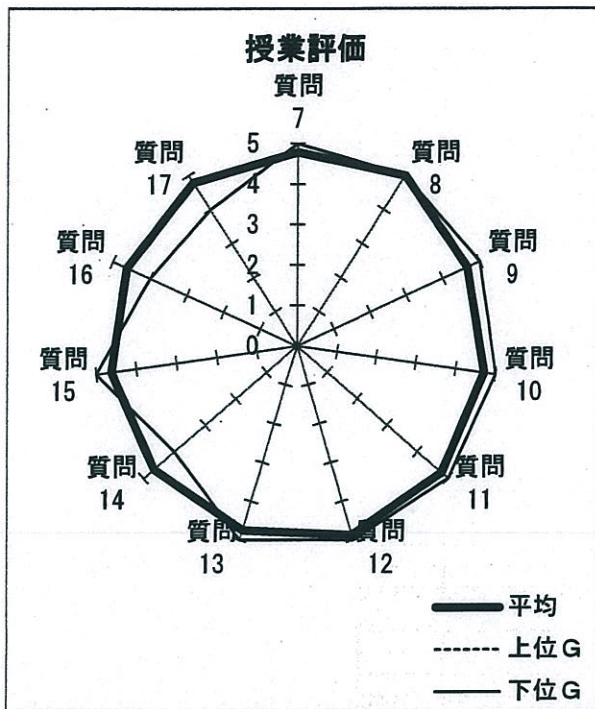
: 授業では問いかけを行い、常に学生に考えることを促す。問いかけや視聴覚教材などを観た後は、必ず意見や感想を聞く。決められた時間の中で自分の考えを言語化し、他者に伝えることは実習や就職してから必要なことである。

③双方向的な授業にする工夫

: 毎回「リアクション・ペーパー」を提出してもらい、次回にフィードバックすることで、以下の教育効果を実感している。まず、学生がどの程度理解できたのか、また私の説明が不十分な個所を知ることができる。また、授業から他人の考え、価値観の多様性を実感し、自分の考え、価値観を相対化することに役立つ。さらに、「読んでもらい自信がついた」など、学生の学習意欲向上にも有効である。

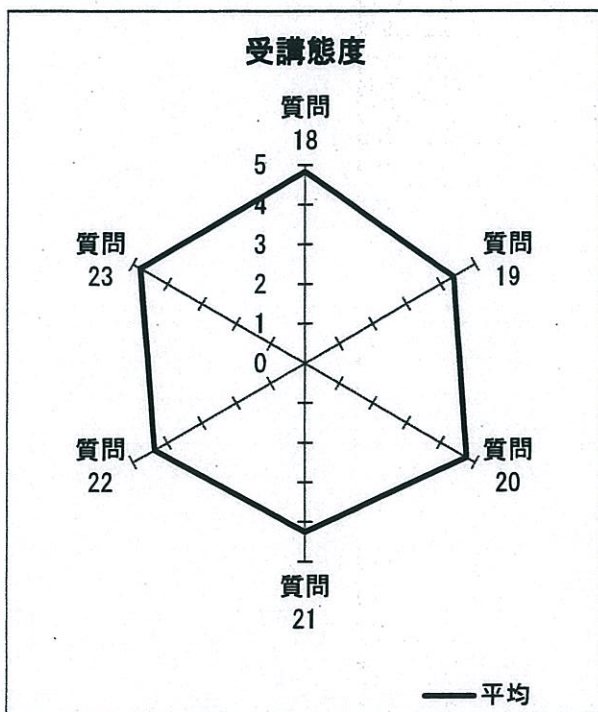
科目コード 824 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 金 珉呈 介護等体験



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	5.0
質問 8	5.0	5.0	5.0
質問 9	4.7	4.7	5.0
質問10	4.7	4.7	5.0
質問11	4.8	4.8	5.0
質問12	4.9	4.9	5.0
質問13	4.8	4.7	5.0
質問14	4.7	4.7	4.0
質問15	4.6	4.6	5.0
質問16	4.6	4.7	4.0
質問17	4.8	4.8	4.0
平均	4.8	4.8	4.7

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.4
質問20	4.8
質問21	4.3
質問22	4.4
質問23	4.8
平均	4.6

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	金 珉呈	介護等体験	25 名

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

全体的な評価は高いが、「質問 15」「質問 16」の項目の評価が全体に比べ、若干低めである。

この科目は小中学校の教諭になるための教職科目である。また、他の科目と違って担当教員による評価ではない。教職課程で定められている「特別支援学校」と「社会福祉施設」での 7 日間の実習を受けるために必要な事務手続きや特別支援教育、社会福祉について学ぶ授業内容になっている。受講生は 3 年生が中心となっているものの、これまでほとんどの学生が、「障害」や「特別支援教育」「社会福祉」について勉強した経験がない。これらの理由で「質問 15、16」の学生一人ひとりがもつ意欲や関心度は低い。また、それぞれの学科で行っている補講や行事などが優先になり、授業を欠席せざるを得ない場合もある。とくに、今年度は音楽学科の演奏会の日程と合わず、特別支援学校での実習時期を変えることになった。

各学科の教職課程への理解を促しながら、引き続き、学生一人ひとりが意欲をもち、主体的に授業に参加できるような授業の内容について工夫していきたい。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2018 年度担当予定科目名 : 介護等体験

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。) 学生が授業に興味を持ち、意欲的に参加できるように引き続き、以下の教育方法の工夫を行う。

①授業の構成やレジューメ作成上の工夫

: 90 分授業で概ね 3 つの小テーマを用意し、メリハリのある授業を行う。またレジューメには「本日の授業内容」を明記し、冒頭に確認して学ぶ内容のイメージを提示するとともに、学生が授業後に達成度を評価できるようにしている。

②授業を進め方の工夫

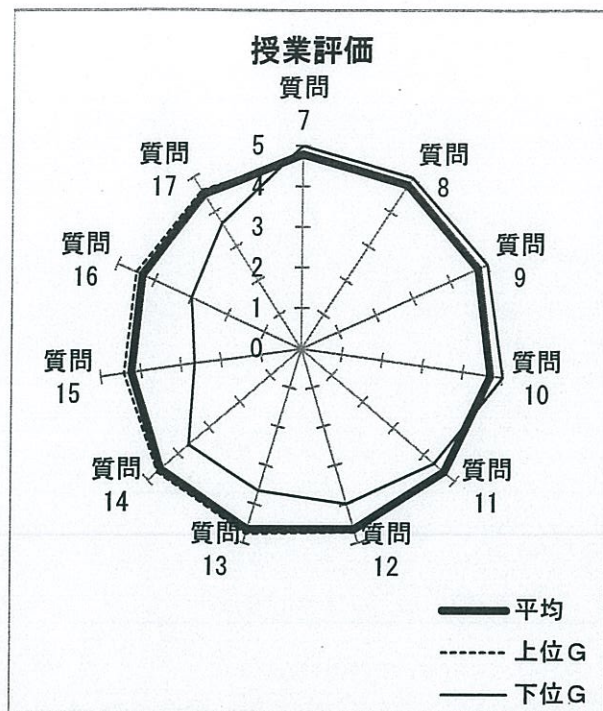
: 授業では問いかけを行い、常に学生に考えることを促す。問いかけや視聴覚教材などを観た後は、必ず意見や感想を聞く。決められた時間の中で自分の考えを言語化し、他者に伝えることは実習や就職してから必要なことである。

③双方向的な授業にする工夫

: 毎回「リアクション・ペーパー」を提出してもらい、次回にフィードバックすることで、以下の教育効果を実感している。まず、学生がどの程度理解できたのか、また私の説明が不十分な個所を知ることができる。また、授業から他人の考え、価値観の多様性を実感し、自分の考え、価値観を相対化することに役立つ。さらに、「読んでもらい自信がついた」など、学生の学習意欲向上にも有効である。

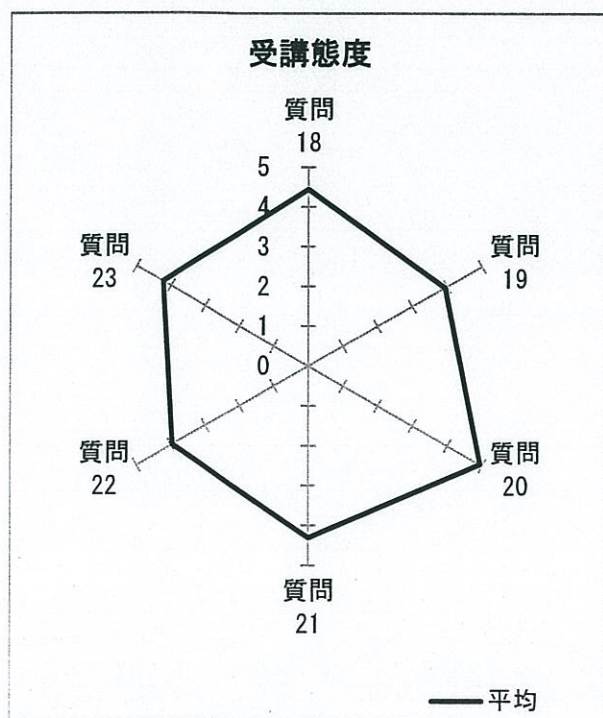
科目コード 825 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 田淵 久美子 教育原理(子ども)



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	5.0
質問 8	4.8	4.8	5.0
質問 9	4.8	4.7	5.0
質問10	4.7	4.7	5.0
質問11	4.7	4.7	4.3
質問12	4.7	4.7	4.0
質問13	4.7	4.8	3.7
質問14	4.6	4.7	3.7
質問15	4.2	4.4	2.7
質問16	4.3	4.5	3.0
質問17	4.5	4.6	3.7
平均	4.6	4.7	4.1

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.4
質問19	3.9
質問20	4.9
質問21	4.3
質問22	4.0
質問23	4.2
平均	4.3

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	田渕久美子	教育原理	29

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

今期の結果を見ると、受講態度上位グループ(26名ぐらい?)と受講態度下位グループ(3名ぐらい?)の評価の差が質問12～17のところで大きくなっていた。とくに質問15の授業を理解できたかという内容については、下位グループが2.7ポイントと上位グループの4.4と大きく離れている。例年からすると、4.4も若干低いですが、それ以上に、分からない学生が数名いることがわかる。

理解度の差の大きさは、日常的に行っているコメントシートの内容で把握できる場所もあったが、とくに疑問点が書かれていることも少なく、質問も講義の時間中にはない。疑問として何を書いているのか分からない可能性もあることを考えると、それらの分からない学生にどう対応するのかが課題であると感じた。また、昨年の比べ全体的に理解度は下がっており、期末試験の成績にも表れていた。

II. 2019年度に向けての取り組み

2019年度担当予定科目名：教育原理

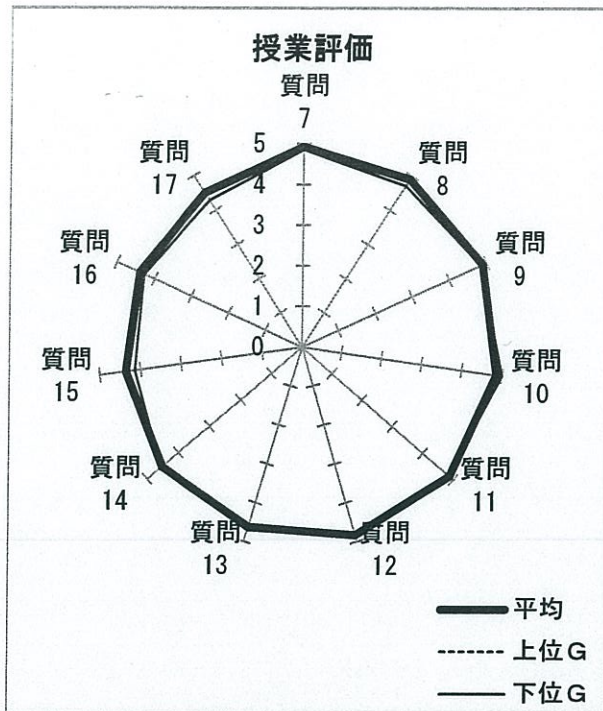
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

上記の課題から、学生が何について分かっていないのか(おそらくは高校までの学習の内容が多いと感じている)を確認する必要がある。また理解の差を少しでも少なくするためには、個別指導しかないと考えられるので、そのような時間を取るか、個別に質問に来ることを促すなどの工夫を行う。

学科の必修科目であるため、入門的な内容を心がけているのだが、理解度を高めるため、内容を減らし、解説などを増やすかどうか検討したい。

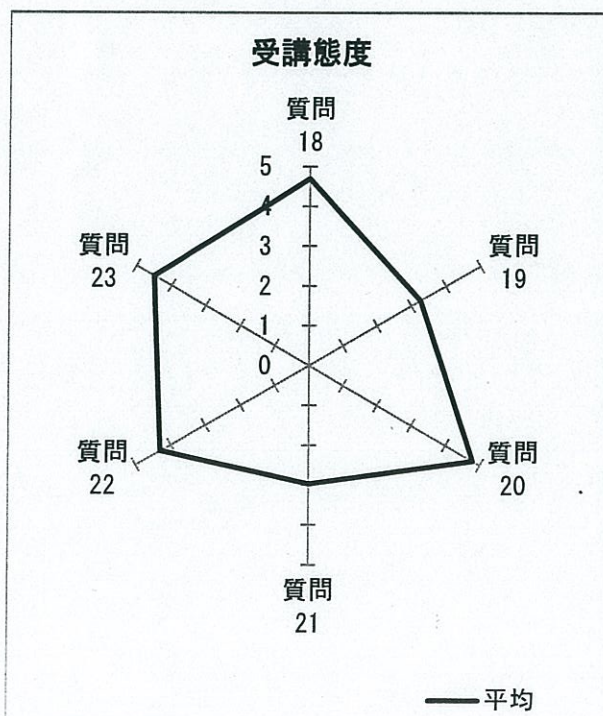
科目コード 827 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 重成 久美 保育原理 I



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.9	5.0	4.9
質問 8	4.9	5.0	4.7
質問 9	4.9	4.9	4.9
質問10	4.9	4.8	5.0
質問11	4.9	4.9	4.9
質問12	4.8	4.8	4.9
質問13	4.6	4.6	4.7
質問14	4.5	4.5	4.6
質問15	4.4	4.4	4.1
質問16	4.4	4.4	4.3
質問17	4.5	4.6	4.3
平均	4.7	4.7	4.6

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	3.3
質問20	4.8
質問21	3.0
質問22	4.3
質問23	4.5
平均	4.1

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	重成久美	保育原理 I	31 名

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

当該科目は、保育士養成課程の保育の本質・目的の理解に関する科目群に位置づくものである。まず、本結果の受講態度を見ると、平均 4.1 点とあまり芳しいとは言えない評価が示されている。このうち、18「授業に真面目に取り組んだと思うか」、20「欠席回数」、23「授業中の私語・携帯電話の自粛、教員及び他者の発言傾聴」の 3 項目は 4.5～4.8 点と比較的高評価であったが、19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」、21「授業の予習・復習をおこなったか」の 2 項目は 3.0 点～3.3 点と著しい低評価となった。これは、前回の調査と同様の結果であり、「授業内容や到達目標」については初回の授業で授業計画を配付し、新入生にも分かりやすく説明しているつもりであったが、未だ理解には至っていなかった可能性がある。また、「授業の予習・復習」については、時折教科書を読む予習や配布プリントの復習を課したりもしたが、その確認が不十分であったと思われる。今後は授業内容の説明の工夫と予習復習の確認方法について検討していきたい。

一方、授業評価を見ると、平均 4.7 点と比較的高評価が示されており、とりわけ 7「授業の目的説明とシラバスに沿った実施」、8「教員の授業時間遵守」、9「教員の話し方」、10「教材・機器・板書等の効果的な使用」、11「教員の説明のわかり易さ」についてはいずれも 4.9 点と高得点であった。しかし、15「授業を理解できたと思うか」、16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」の 2 点は 4.4 点と比較的低い得点となった。7「授業の目的説明とシラバスに沿った実施」については、上述した学生の受講態度の項目 19「授業内容や到達目標を理解して受講したか」が低評価だったことを踏まえると、この得点の差異については、まだ初めてのアンケートであったこともあつてか関連して答えられていない部分もあると推測される。また、16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」については、できるだけ具体的にイメージが浮かびやすい話をしたつもりであったが、1 年生前期は特に具体的に明解な理解ができるよう、より一層の工夫をしていきたい。

II. 2018 年度に向けての取り組み

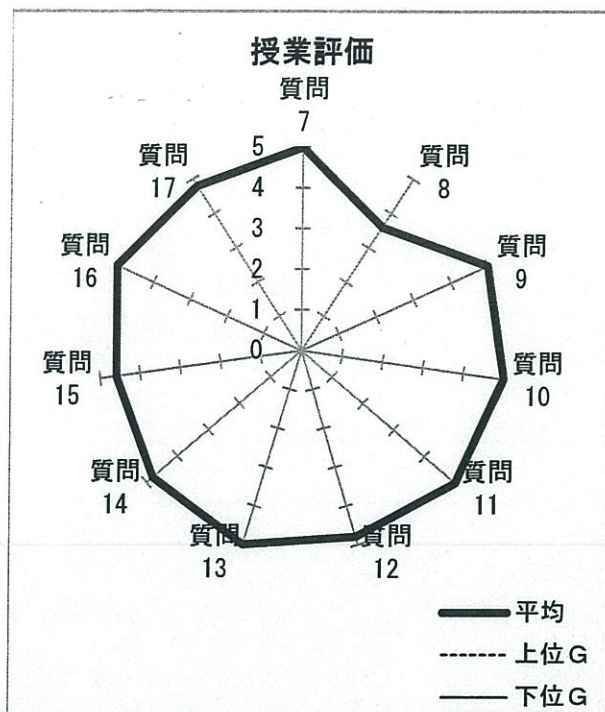
2018 年度担当予定科目名： 障害児保育 I

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

障害児保育 I は、同学年の学生たちが 2 年次に受講する必修科目である。そのため、保育の原理に則り、さらにその対象の範囲を広く深く学ぶ当該科目がどの程度理解されるようになるのか、授業方法の工夫を検討していきたい。

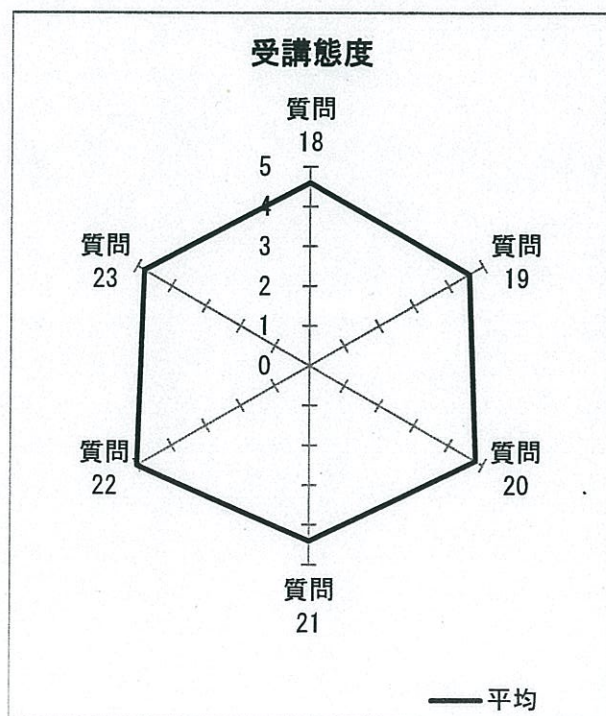
科目コード 828 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 重成 久美 3年セミナーa



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	5.0	5.0	#DIV/0!
質問 8	3.6	3.6	#DIV/0!
質問 9	5.0	5.0	#DIV/0!
質問10	5.0	5.0	#DIV/0!
質問11	5.0	5.0	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	5.0	5.0	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.6	4.6	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.6
質問20	4.8
質問21	4.4
質問22	5.0
質問23	4.8
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	重成久美	3年セミナーa	5名

2018年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と2019年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

当該科目は、3, 4年生で卒業論文の制作につなげていくための2年間に渡るセミナーの第一段階の科目である。

まず、本結果の受講態度を見ると、平均4.7点となっており、評価の高い項目は22「レポート・課題に積極的に取り組んだか」5.0点、20「欠席回数」、23「私語・携帯電話の自粛、教員及び他者の発言傾聴」4.8点であった。一方、評価の低い項目は21「授業は予習・復習をおこなったか」4.4点であった。当該科目はほぼ毎回全員の学生が主体的に授業取り組み、よく考える態度が見受けられていたが、発表の担当を決めたことで、担当日以外は予習・復習を行っていなかったものと思われる。

また、授業評価は平均4.8と比較的良好であり、7「授業の目的説明とシラバスに沿った実施」、9「教員の話し方」、10「教材・聞き・板書等の効果的な使用」、11「教員の説明のわかり易さ」、13「質問機会の確保と質問への適切な対応」、16「授業は興味・関心・意欲を引き出したか」が5.0点であった。一方、8「教員の授業時間遵守」については、3.6と低得点となっており、授業の開始時刻を遵守できなかったことあったためであると推測される。その他、15「授業を理解できたと思うか」について4.6点と他項目に比して若干低めの得点となっている。今期は一人2回発表の機会を設けたが、1回目は1冊の文献を輪読しながら研究発表レジュメを作成し発表する練習、2回目は各自興味のあるテーマに基づいた研究発表レジュメの作成と発表を行ってきた。しかしながら、どちらかと言えば発表や質疑応答が形式的になっている印象が強く、議論を深めるという認識には至っていない現状があると思われる。セミナーは各自のテーマに沿って論理的に考える力を育成する重要な科目であるため、今後はより議論を深める運営の仕方について検討していきたい。

II. 2019年度に向けての取り組み

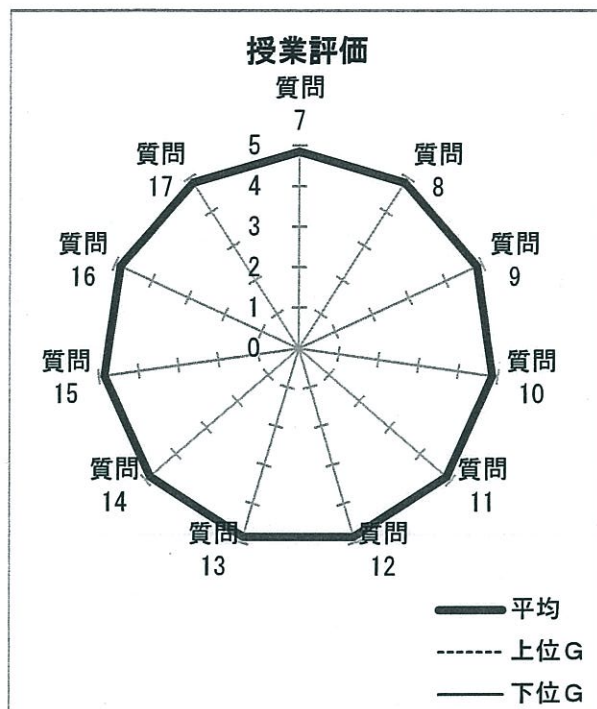
2019年度担当予定科目名： 3年セミナーa

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

今回、レポート・課題に積極的に取り組んではいたが、研究発表担当者のみが懸命に取り組み、全員が発表内容を自分のこととして主体的に考えたり、議論をしたりしながら論理的思考を深めるところまで取り組むことができていなかった。そのため、次年度は、研究発表のレジュメ作成や発表をする前に、学生個人の興味・関心を膨らませる動機づけを丁寧に行うことを検討したい。

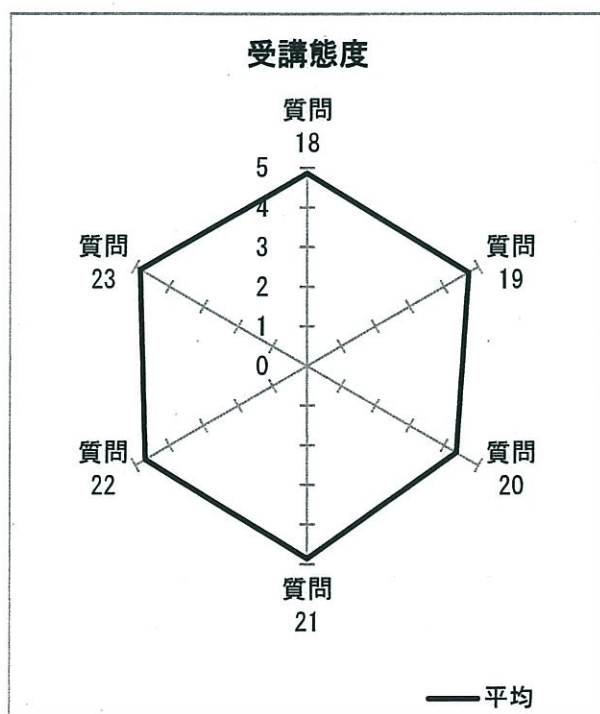
科目コード 829 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 福地 友子 保育実習Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 8	4.9	4.9	#DIV/0!
質問 9	4.9	4.9	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.9	4.9	#DIV/0!
質問12	4.9	4.9	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.9	4.9	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.9	4.9	#DIV/0!
質問17	4.9	4.9	#DIV/0!
平均	4.9	4.9	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.4
質問21	4.9
質問22	4.7
質問23	4.9
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	福地友子	保育実習Ⅱ	14 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

この授業は 6 月に行われる保育実習(保育)にむけての指導を行うものである。

授業評価については上位 G 下位 G の開きもなく、全てが 4.9 と高い評価を得られた。

4 年間の保育の学びのまとめ、保育士となるための課題の明確化を行うため、殆どの学生が真面目に取り組んでいた。特に今年度の学生は、コミュニケーション力の高い学生も多く、様々な実践にも臆せず、意欲的に取り組んでいた。

受講態度についても、4.4 から 4.9 と良い結果となった。

授業 20「欠席回数」が 4.4 と一番低い評価になっていた。欠席回数をみると受講者 14 名中、1 回が 4 名、2 回、3 回が 1 名となっていた。他の授業よりも欠席回数の縛りを 3 回としていることもあるが、毎時の授業での課題も多いため、殆どの学生が遅刻することなく、真面目に取り組んでいた。

II. 2019 年度に向けての取り組み

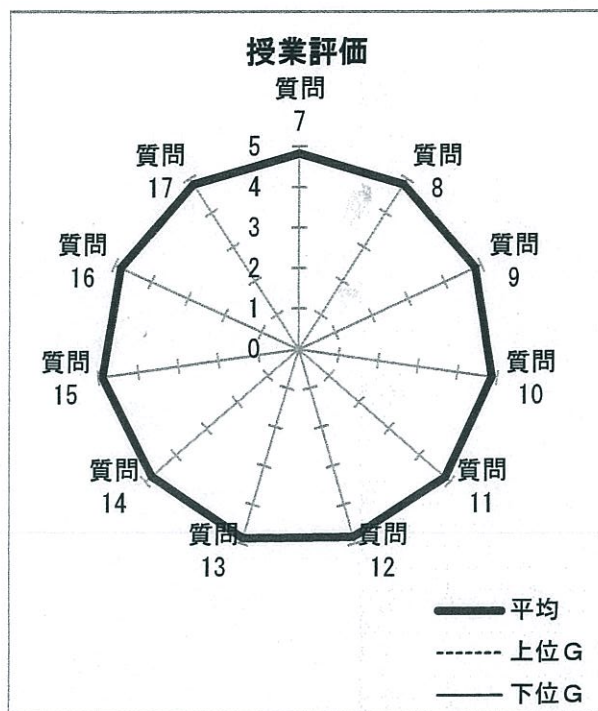
2019 年度担当予定科目名： 保育内容

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

次年度からは、保育実習の課題を活かし、保育内容の指導法、実践法などを、学生が意欲を持って取り組める教材研究、展開法などを考え、指導していきたい。

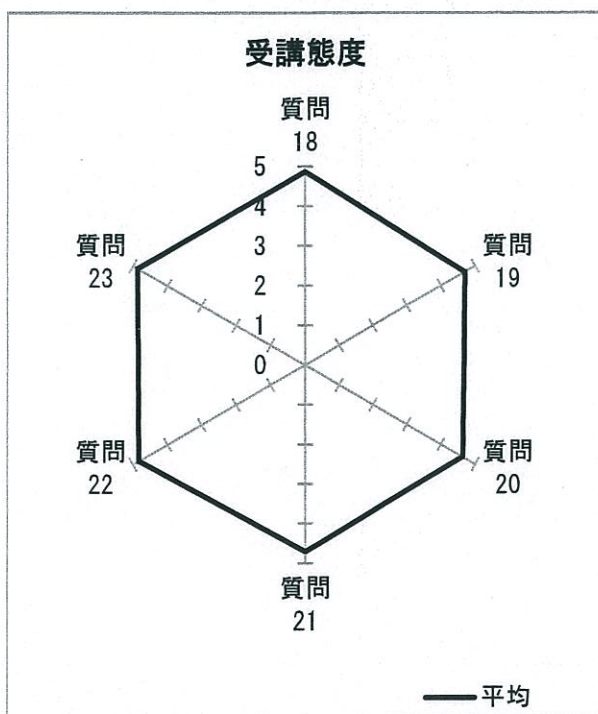
科目コード 830 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 福地 友子 音楽表現Ⅱa



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.9	4.9	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.9	4.9	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.9	4.9	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.7
質問20	4.6
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.8

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	福地 友子	音楽表現Ⅱa	30 名

2018 年度後期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

対象の学生は、

授業評価は、上位グループと下位グループの差もみられず、4.8 から 4.9 の高い評価を得た。

この授業では保育音楽に不可欠な音楽の基礎について学ぶが、音楽経験の有無により、かなり個人差がみられ、習熟度の開きもあるため、授業外にも個別指導の機会を増やし、学生の理解に努めた。

入学時から継続的な学びができるのが、この科目で一旦終了するので、基礎固めにもより意識を持って取り組んだ。勉強・練習の仕方がわからず戸惑っている学生については、練習課題の細分化により、見通しを持て、小さい課題を達成することで、意欲的な学びに繋げることができた。

6 月の保育本実習に向け、子どもの歌、手遊びうたの課題に取り組んだことも、現場での大きな実践力にもなったようだ。

受講態度は、平均 4.6 から 4.9 の概ね良い評価であったが、質問 20「欠席回数」の項目においては、4.6 と一番低い評価になっていた。受講者 30 名中、欠席回数 1 回が 9 名、2 回が 1 名となっており、欠席理由をみると、無断欠席はほぼ見られず、実習前の事前訪問や実習後体調を崩したことなどが多かった。殆どの学生が真面目に取り組んでいた。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名：音楽表現Ⅱa

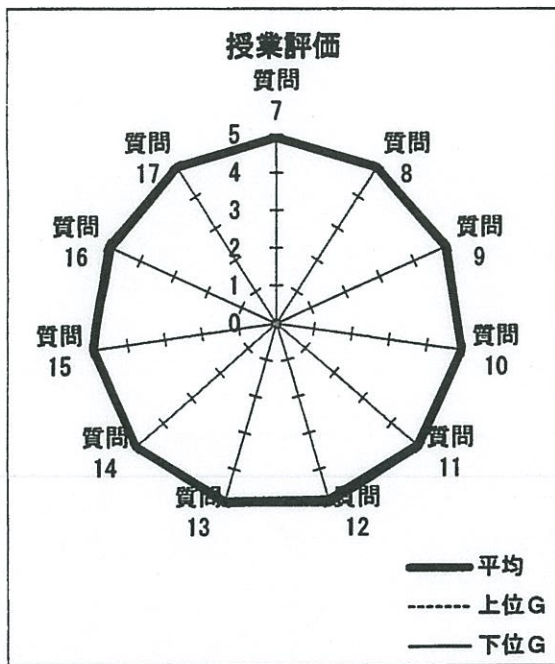
(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

ピアノを苦手とする学生が多い中、いかに対応できる力をつけさせるかが大きな問題となっている。

今後も課題へのステップを増やし、達成感を持たせ、個別の指導の場面を増やし、対応していきたい。

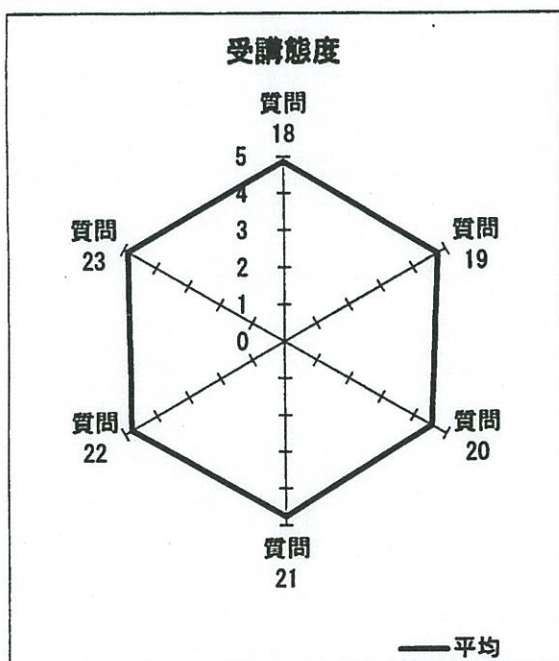
科目コード 831 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 篠永 洋 造形表現Ⅱ



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.9	4.9	5.0
質問 8	4.9	4.9	5.0
質問 9	4.9	4.9	5.0
質問10	4.9	4.9	5.0
質問11	4.9	4.9	5.0
質問12	4.8	4.8	5.0
質問13	4.9	4.9	5.0
質問14	4.9	4.9	5.0
質問15	4.9	4.9	5.0
質問16	4.9	4.9	5.0
質問17	4.9	4.9	5.0
平均	4.9	4.9	5.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.9
質問19	4.8
質問20	4.6
質問21	4.8
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.8

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	篠永 洋	造形表現Ⅱ	39

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果：教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

おおむね良好な評価と捉えている。

1 年後期の造形表現Ⅰから、活動の振り返りを徹底して行うようにしている効果が出ていると考えられる。そのプリントをまとめたポートフォリオで最終評価を出すということで、造形表現ⅠとⅡの学びを俯瞰できる 1 冊がそれぞれ完成している。実習前などに活用してもらいたい。

質問 12 の数字がやや低いのが、造形活動をする中で友だち同士の会話が盛り上がりすぎて、その場の活動と関係の無い話となった場面もあったと思う。適切な内容へと意識を向けることが出来るような、効果的な机間巡視と言葉かけを心がけてゆきたい。

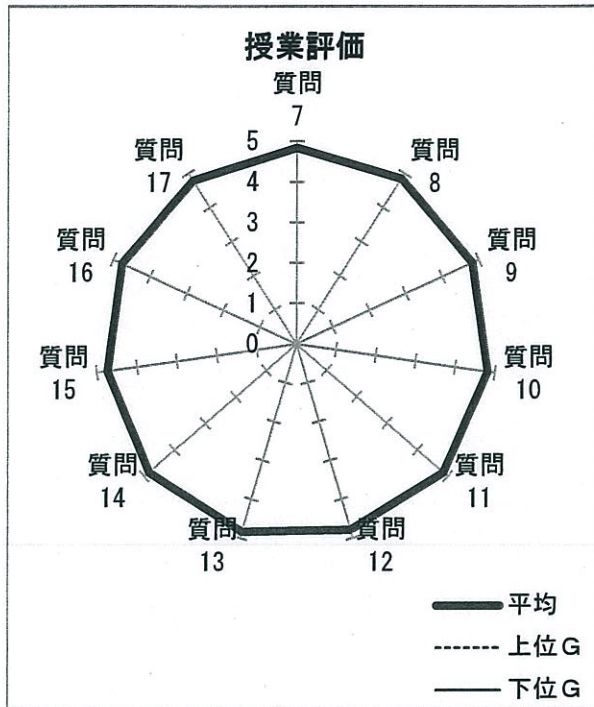
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名： 造形表現

1 年生後期と 2 年生前期にそれぞれⅠ、Ⅱで開講していた造形表現であるが、カリキュラム変更により 2019 年度入学生より「造形表現」としてⅠコマの開講となる。学外での保育実習へ向けて、今までよりさらに実践的な内容に絞り込んで授業を行う予定である。

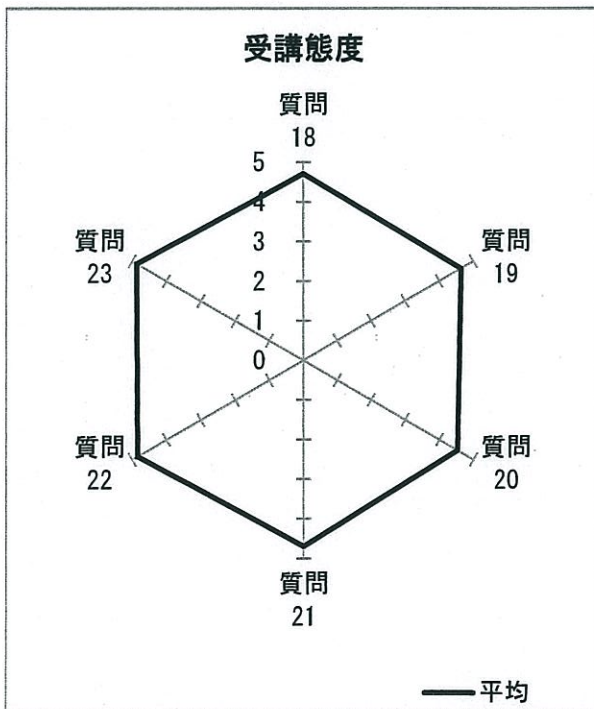
科目コード 833 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 政次 カレン Childcare EnglishⅢ



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.8	4.8	#DIV/0!
質問15	4.7	4.7	#DIV/0!
質問16	4.8	4.8	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.7
質問19	4.6
質問20	4.5
質問21	4.7
質問22	4.8
質問23	4.9
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3...)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	政次 カレン	Childcare English III	4 0

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

Students seem satisfied with and enjoyed this class. Most students worked hard in class, actively participated and interacted with each other, and tried to use English during classroom activities. I made an effort to vary my teaching materials, for example using photo slideshows showing Australian childcare and education, movie clips, popular songs, and children's songs and finger plays. I tried to connect the textbook to real-life situations the students might encounter and to their own lives. I tried to use English as much as possible, but used Japanese where necessary to support students who needed it. I also tried to keep the lessons as active as possible, with a variety of different types of classroom activities.

II. 2019 年度に向けての取り組み

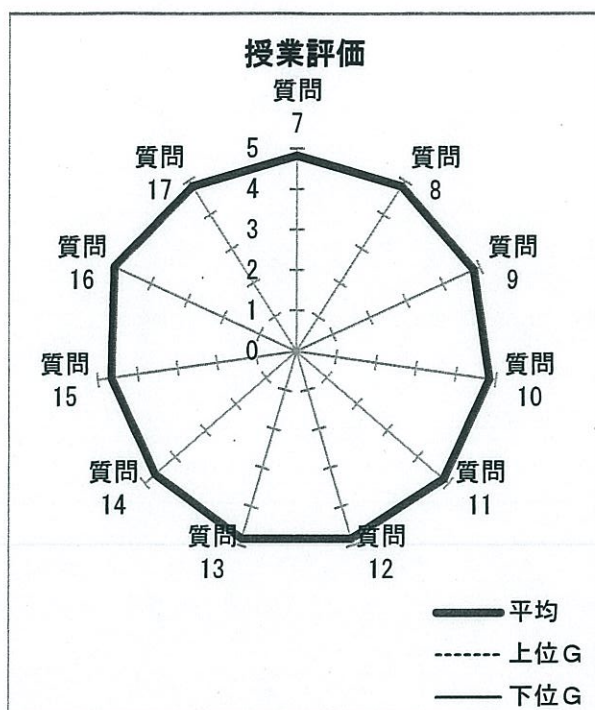
2019 年度担当予定科目名 : Childcare English III

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

I will continue to supplement the textbook with my own materials to appeal to the students' interests and current concerns, and to create classroom activities which provide the students with as much interaction in English as possible. I will try to give more support to those students who are less confident in English, and to show how the course content is relevant to their own lives and to their teaching practice. I will attempt to talk to each student individually to make sure that they have understood the class content.

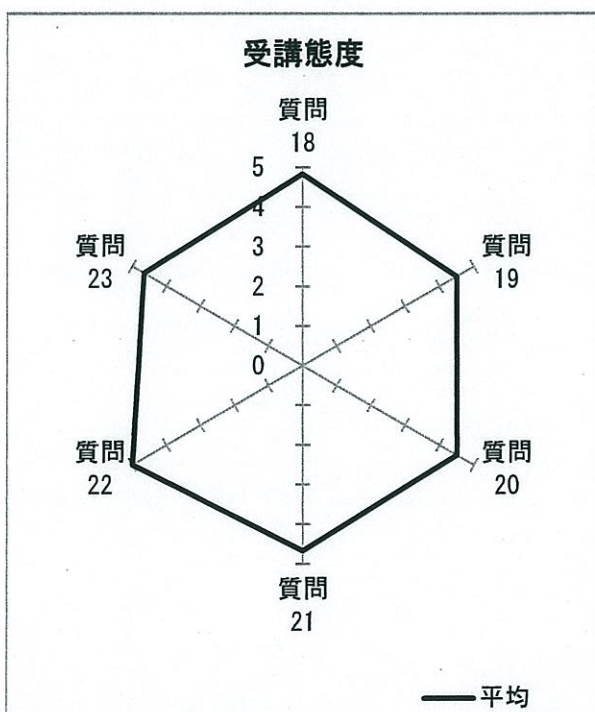
科目コード 834 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 政次 カレン Early Childhood English Education TP I



質問項目	平均	上位G	下位G
質問 7	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 8	4.8	4.8	#DIV/0!
質問 9	4.8	4.8	#DIV/0!
質問10	4.8	4.8	#DIV/0!
質問11	4.8	4.8	#DIV/0!
質問12	4.8	4.8	#DIV/0!
質問13	4.8	4.8	#DIV/0!
質問14	4.7	4.7	#DIV/0!
質問15	4.7	4.7	#DIV/0!
質問16	5.0	5.0	#DIV/0!
質問17	4.8	4.8	#DIV/0!
平均	4.8	4.8	#DIV/0!

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施
 質問 8 : 教員の授業時間遵守
 質問 9 : 教員の話し方
 質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用
 質問11 : 教員の説明のわかり易さ
 質問12 : 教員の授業環境に対する配慮(私語の注意等)
 質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応
 質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映
 質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか
 質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか
 質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.8
質問19	4.5
質問20	4.5
質問21	4.7
質問22	5.0
質問23	4.7
平均	4.7

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか
 質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか
 質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)
 質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか
 質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか
 質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科	政次 カレン	Early Childhood English Education TP I	6

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

Students seem satisfied with this class. They worked hard to complete in-class tasks and teaching activities, and to plan, prepare and teach an English class to 3rd graders at a local elementary school. The students supported each other well, sharing their different skills. Some students need to try to use English more during class.

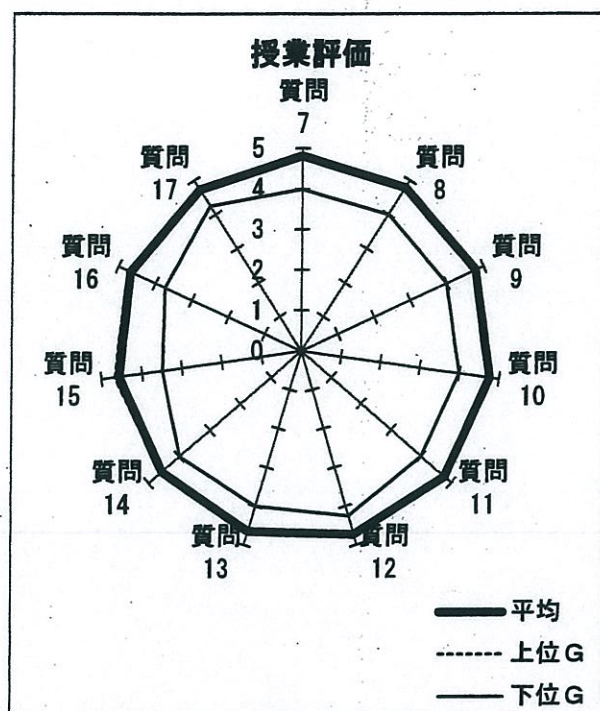
II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名 : Teaching Young Learners TP I

The class seems to be successful in its current format, although I would like the students to use more English in class, and to improve my assessment and feedback methods. I would like to encourage the students to theorize more about the learning outcomes of the teaching activities they design, and I need to confirm that they have understood the lesson content.

科目コード 835 (2018年度 前期)

健康生活学部 子ども学科 石川 由香里 家族関係学



質問項目	平均	上位 G	下位 G
質問 7	4.8	4.9	4.0
質問 8	4.8	4.9	4.0
質問 9	4.8	4.9	4.0
質問10	4.8	4.8	4.0
質問11	4.8	4.8	4.0
質問12	4.7	4.8	4.3
質問13	4.7	4.7	4.0
質問14	4.6	4.6	4.0
質問15	4.6	4.7	3.5
質問16	4.7	4.8	3.8
質問17	4.7	4.8	4.3
平均	4.7	4.8	4.0

質問 7 : 授業の目標説明とシラバスに沿った実施

質問 8 : 教員の授業時間遵守

質問 9 : 教員の話し方

質問10 : 教材・機器・板書等の効果的な使用

質問11 : 教員の説明のわかり易さ

質問12 : 教員の授業環境に対する配慮 (私語の注意等)

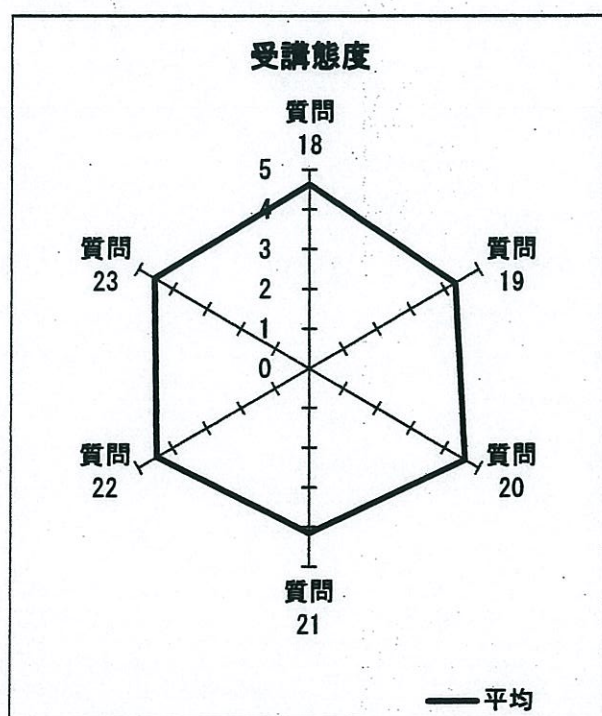
質問13 : 質問機会の確保と質問への適切な対応

質問14 : 学生の理解度の確認と授業への反映

質問15 : (自分は) 授業を理解できたと思うか

質問16 : 授業は興味・関心・意欲を引き出したか

質問17 : 新しい知識・技術・理論等の習得への有用性



質問項目	平均
質問18	4.6
質問19	4.3
質問20	4.6
質問21	4.2
質問22	4.5
質問23	4.5
平均	4.4

質問18 : (自分は) 授業に真面目に取り組んだと思うか

質問19 : 授業内容や到達目標を理解して受講したか

質問20 : 欠席回数 (0回→5ポイント、1回→4、2回→3…)

質問21 : 授業の予習・復習をおこなったか

質問22 : レポート・課題等に積極的に取り組んだか

質問23 : 私語・携帯電話等の自粛、教員及び他者の発言傾聴

学 部 名	学 科 名	担当者名	科 目 名	履修者数
健康生活学部	子ども学科・生活 デザイン学科	石川由香里	家族関係学	48

2018 年度前期授業評価アンケート集計結果 : 教員による分析・評価と 2019 年度に向けての取り組み

I. 分析と評価

子ども学科と生活デザイン学科と、同時開講している科目である。子ども学科の学生にとっては、これまでの学修内容と関連が深い科目である一方で、生活デザイン学科の学生にとっては、家庭科の教員免許を取得しようとする学生以外には、他の専門科目と質の異なる内容になっていると思われる。質問 15「上位グループと下位グループの数値の開きが最も大きくなっているのも、その影響があるかと思われる。社会学の専門用語の理解が難しいのだろうと推察している。

授業形態としては、パワーポイントを用い、画面をプリントしたものを配布している。しかし、と教室の広さに比してスライドの画面が小さく、印刷ではグラフの色なども出ないため、わかりにくいことが多々あった。

講義形式で行っているためか、質問 13「質問機会の確保と質問への適切な対応」として、毎回の出席調査票にコメントを書いてもらうことにしているが、確かにそれを紹介する機会が少ないことは、反省材料である。

II. 2019 年度に向けての取り組み

2019 年度担当予定科目名 : 家族関係学

(同じ、あるいは同様の科目を担当しない場合でも、新たな取り組みの可能性についてコメントする。)

パワーポイントが見えにくいので、配布資料のサイズを大きくすることと、教室の変更を考えている。

授業の始まりと終わりの時間は厳守しているものの、今年度は公務の都合により、休講補講が多く、その点では学生に迷惑をかけてしまった。来年度からはその不満は解消できると考えている。さらに来年は人間関係学科も同時開講となるため、複数の学科の学生を満足させられるように映像を用いるなどの工夫もしていきたい。